

# 地域水産資源の活用による地域鉄道路線や沿線水産業の活性化

北海道函館水産高等学校 学級数 14 (専攻科 2) (校長 亀山 喜明)

## 1 実践の趣旨

地域が抱える課題や、将来、生徒が直面する課題に対して、見通しを持ち、地域活性化に寄与できるような体験の場を設定し、生徒の基礎的・汎用的能力を育成することを目的に、地域水産資源の活用による地域鉄道路線や沿線水産業の活性化についての研究を進めている。

## 2 実践の概要

### ○ 「道南いさりび鉄道」との連携

「道南いさりび鉄道」は、北海道新幹線の開業に伴い、第三セクターへ移管された鉄道である。本校では夏季に約 40 名、冬季には約 160 名の生徒が通学に利用しており、本校にとってなくてはならない鉄道であるが、多額の赤字が続いている。生徒は、研究において鉄道利用者としての立場からばかりでなく、鉄道を活性化する側の立場からのアプローチをすることによって、地域社会の一員という意識を持ちながら課題の解決を図っている。

#### (1) 「道南いさりび鉄道」車内販売企画

近年の健康志向でニーズが高まっている「さば水煮缶詰」と本校海洋技術科及び機関工学科が長期乗船で漁獲したマグロを使用した「まぐろオイル漬け缶詰」(ツナ缶)の車内販売を実施した。これらの缶詰ラベルは生徒の発案で、道南いさりび鉄道の車両カラーとなっている。

#### (2) 「ブリオイル漬け缶詰」の開発

北斗市に隣接する函館市の基幹産業であるスルメイカの水揚げ量が近年減少する一方で、ブリの水揚げが増加し、全国 2 位となっている。1 年次ではブリ消費拡大推進協議会(渡島総合振興局、函館市)の「ブリ加工について研究を行い、地域に還元してほしい」という要望に応え、本校生徒が試作品「ブリオイル漬け缶詰」を完成させた。「ブリオイル漬け缶詰」は地域の祭りにおいて、訪れた市民に向けた試食及び無料配布を行い、さらには道南いさりび鉄道でも無料配布を実施した。配布した「ブリオイル漬け缶詰」のラベルにはアンケート用の QR コードを付けており、試食した消費者から広く意見を聞き、生徒の研究開発へフィードバックしている。

#### (3) ひまわりプロジェクト

2014 年に本校生徒が東日本大震災のボランティア活動に参加した際に、震災の記憶を風化させないための全国的な取組の中で、被災地のひまわりの種によって全国各地で花を咲かせるという「ひまわりプロジェクト」を積極的に行っていた佐賀県の杵島商業高校の生徒と出会った。この縁から、ひまわりの種を譲り受け、有志の活動として学校花壇にひまわりを栽培する活動が代々引き継がれてきた。本年度からは本校敷地にある道南いさりび鉄道沿線にひまわりの種を植え、花が咲いた沿線で UW 2 旗により観光客を歓迎する取組を行っている。

## 3 取組の成果と課題

- 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。
- 生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができている。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、車内販売等ができなかった。工夫が必要である。



道南いさりび鉄道とのコラボポスター



車内販売販売した缶詰



「ブリオイル漬け缶詰」試食の様子



鉄道沿線のひまわりと UW 2 旗

※国際信号旗 UW 2 は「歓迎」という意味